

証券コード：4027



決算説明資料

「2026年3月期 決算期」

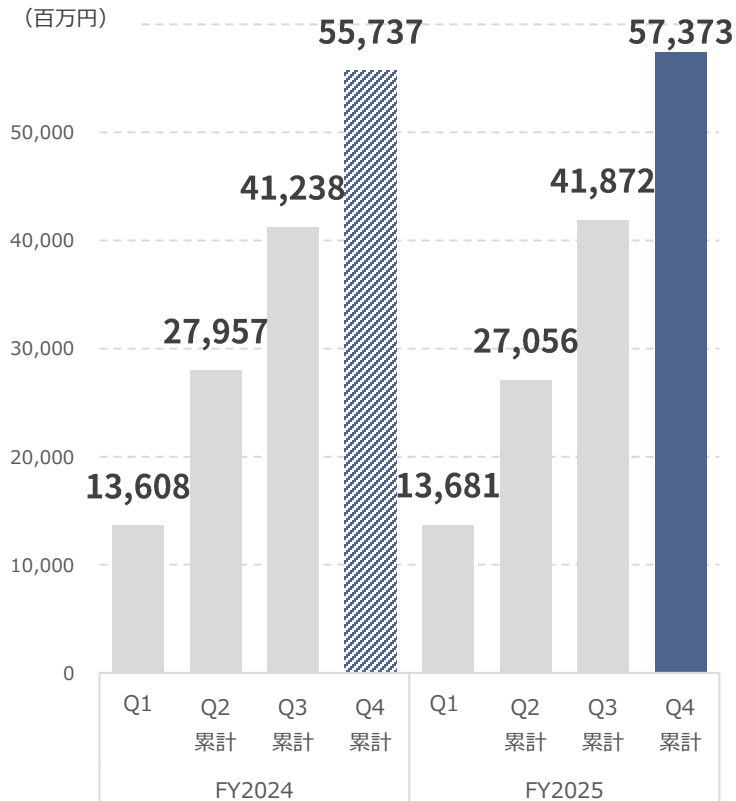
2026年6月1日

本資料における業績予想および将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご了承おきください。

連結業績サマリー

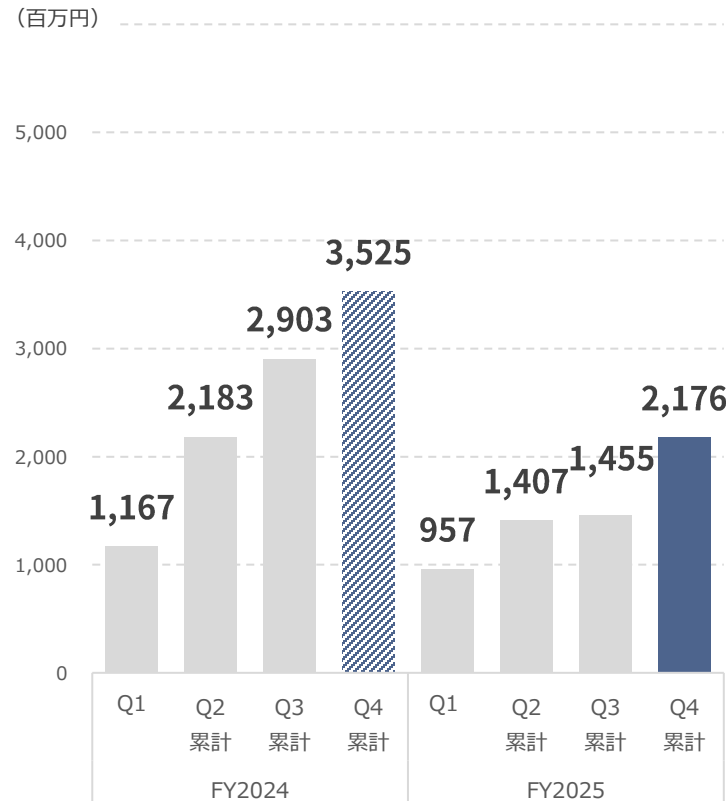
売上高

57,373百万円
前期比：2.9%増



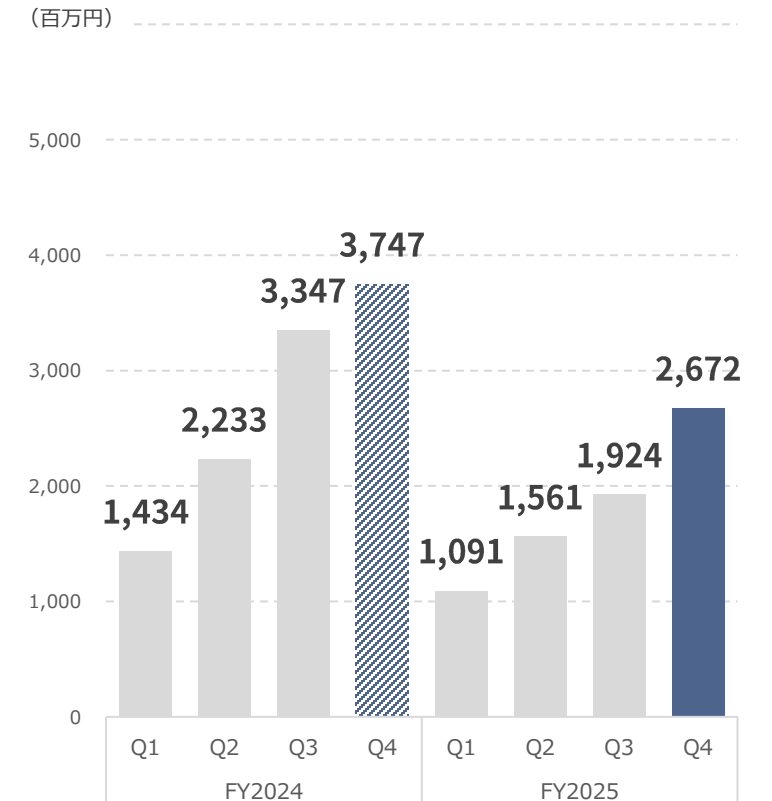
営業利益

2,176百万円
前期比：38.3%減



経常利益

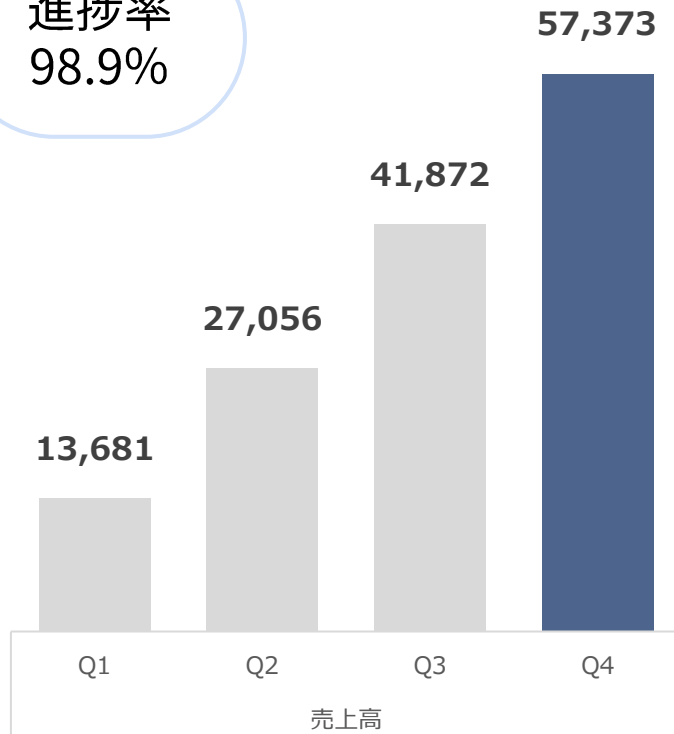
2,672百万円
前期比：28.7%減



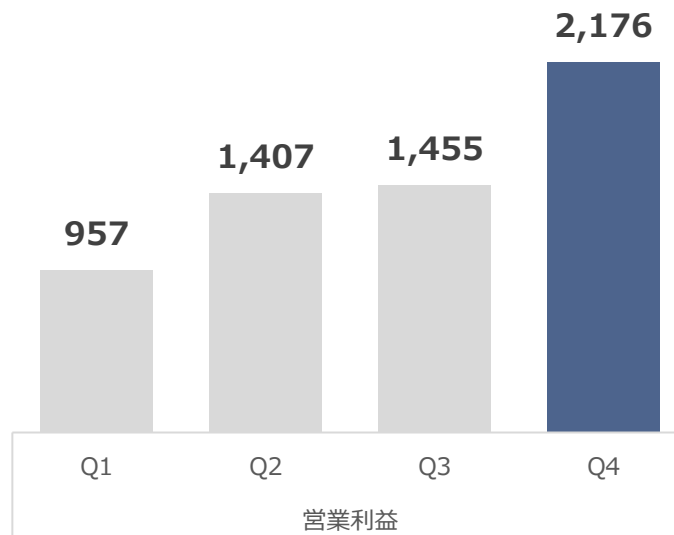
連結損益（対通期予想）

- ・売上高 機能性材料事業、電子材料・化成品事業ともに想定通り
- ・営業利益 機能性材料事業において、汎用用途、機能性微粒子製品ともに想定を上回る改善
- ・経常利益 営業利益の上振れに伴って想定を上回る

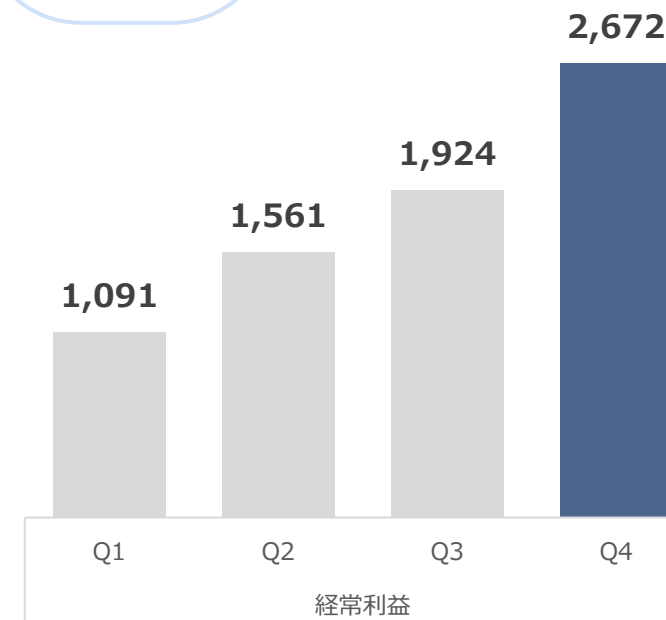
進捗率
98.9%



進捗率
128.0%



進捗率
127.3%

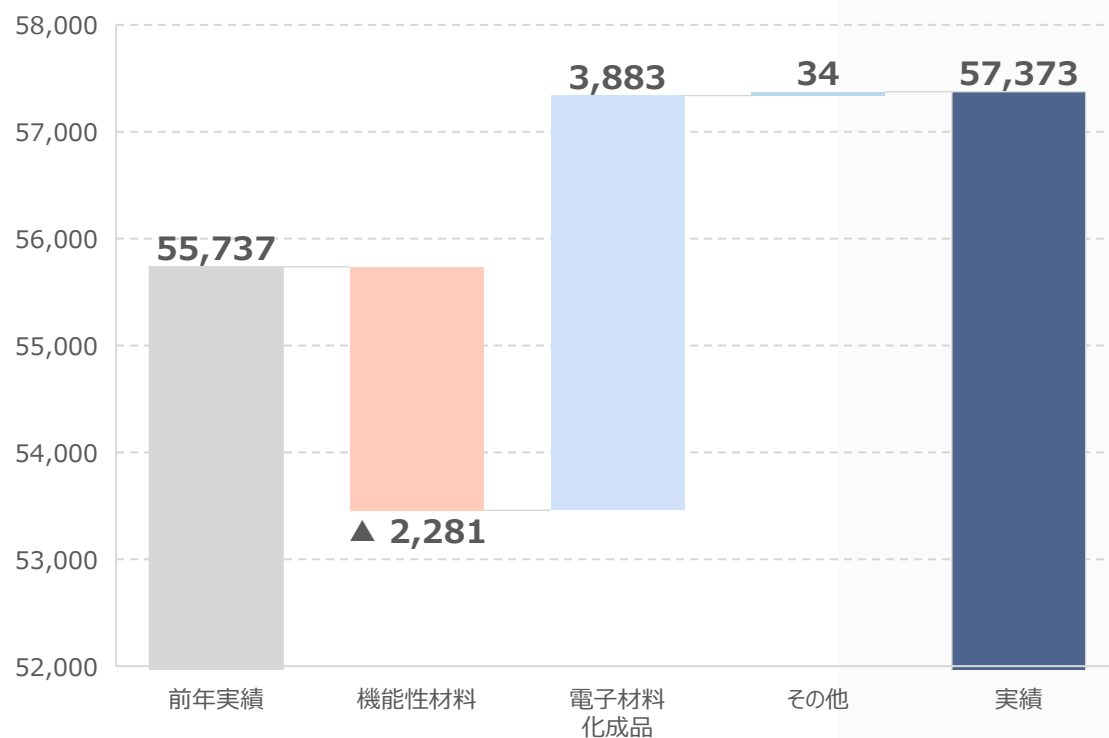


(百万円)

売上高・営業利益の増減要因（前年対比） 事業別

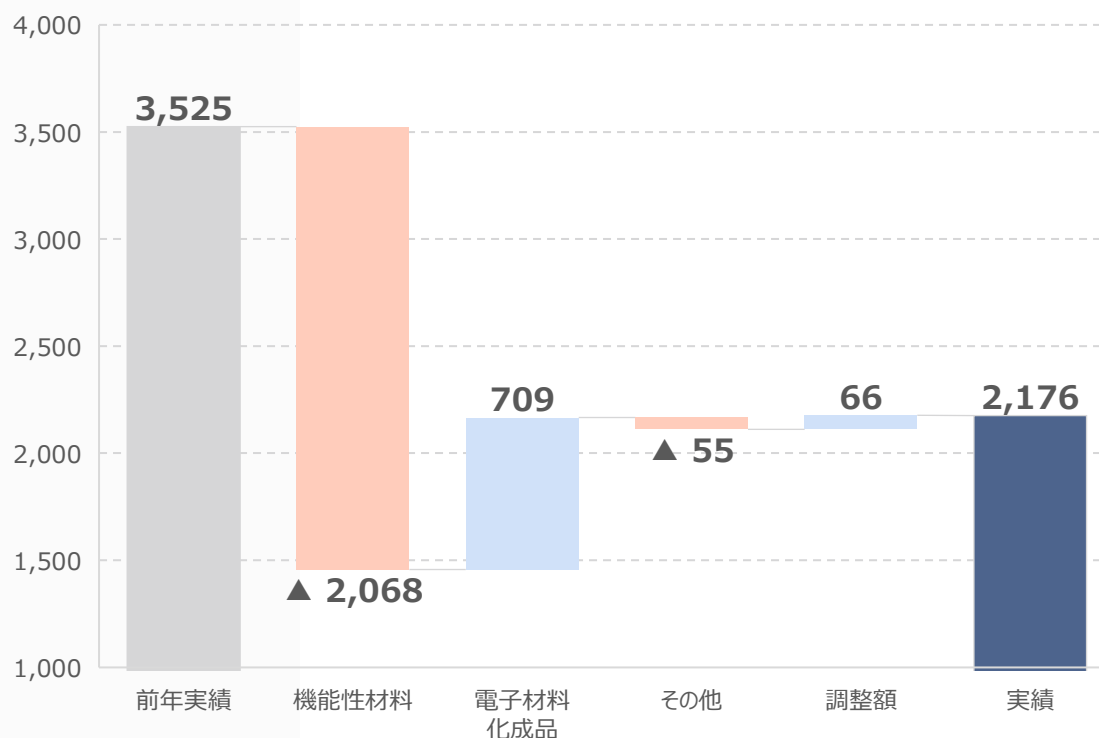
- ・売上高は、機能性材料事業で減少したが、電子材料・化成品事業が増加し増収
- ・営業利益は、機能性材料事業の落ち込みを電子材料・化成品事業でカバーしきれず減益
- ・その他や調整額に関しては例年通り

売上高



営業利益

(百万円)



連結損益計算書

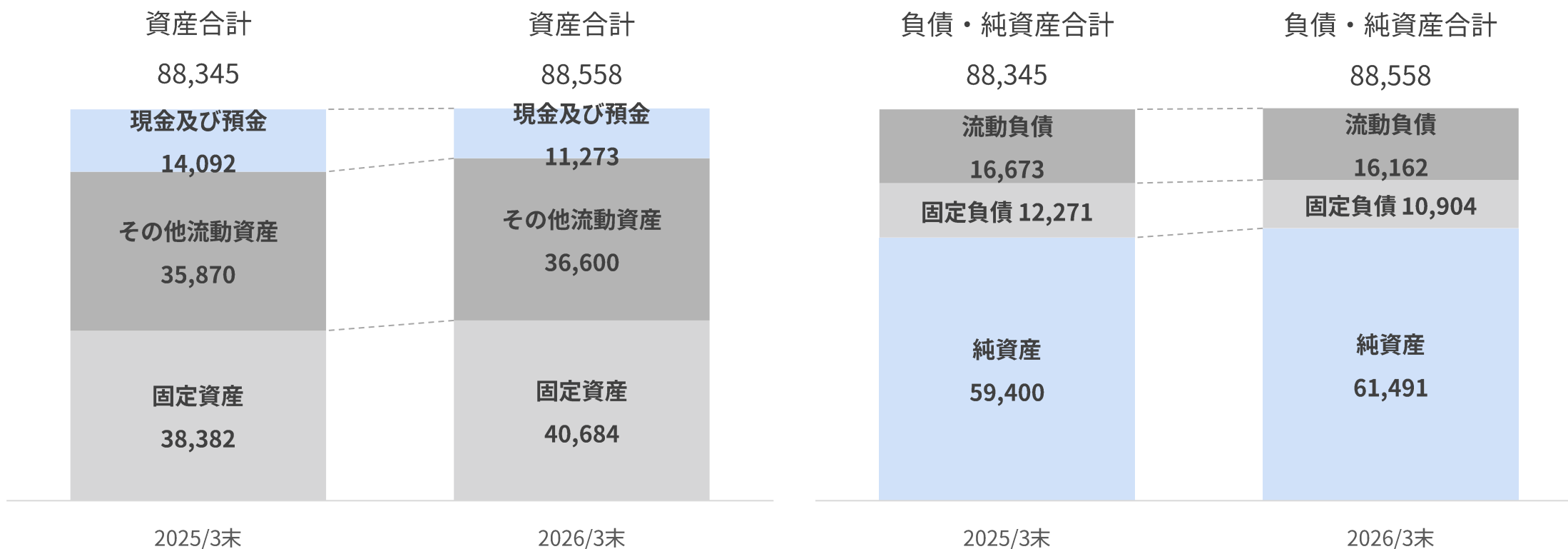
- ・電子・化成品材料の売上原価が増加、原燃料価格の上昇影響を受ける
- ・材料費だけでなく、投資による労務費や減価償却費も増加
- ・汎用酸化チタン事業における減損損失を3,170百万円計上したため、純利益は減少

	FY2024 24/4-25/3 (百万円)	構成比 (%)	FY2025 25/4-26/3 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	55,737	100%	57,373	100%	1,636	2.9
売上原価	45,559	81.7%	48,378	84.3%	2,819	6.2
売上総利益	10,178	18.3%	8,994	15.7%	▲ 1,183	▲ 11.6
販管費	6,652	11.9%	6,817	11.9%	165	2.5
営業利益	3,525	6.3%	2,176	3.8%	▲ 1,348	▲ 38.3
経常利益	3,747	6.7%	2,672	4.7%	▲ 1,075	▲ 28.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,422	4.3%	▲ 878	-1.5%	▲ 3,300	▲ 136.3

貸借対照表

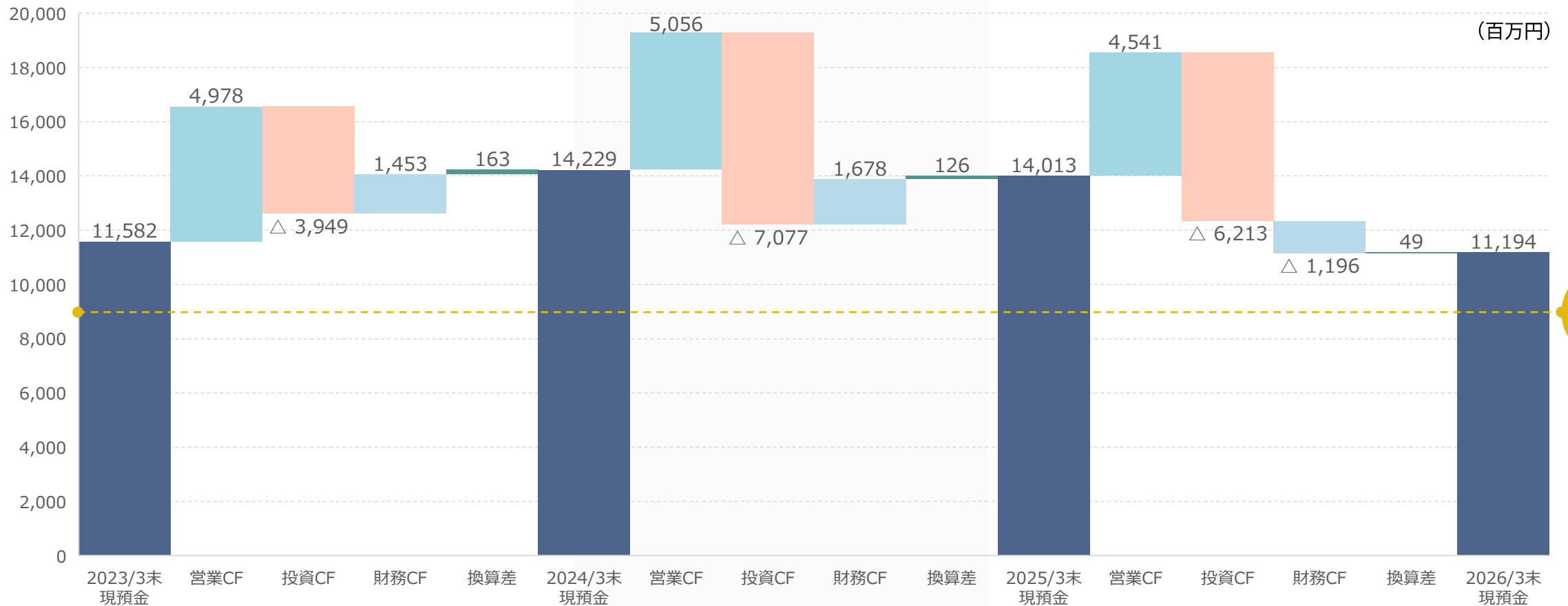
- 株式市場の好調を受け、当社が保有する有価証券評価額が上がり、固定資産が増加
- 熊山第4工場の設備投資による支払いがあり、現金及び預金は減少
- 設備未払金の支払いにより、流動負債は減少

(百万円)



キャッシュフロー推移

- 営業CFは4,541百万円、投資CFは△6,214百万円（主な設備投資は、熊山第4工場）
- 配当金の支払額や借入金の返済を行い、財務CFは△1,196百万円
- 2026年3月末の現預金は、月商2.5ヵ月程度



月商
2ヵ月

当社事業の技術進化と製造工場

戦前・戦後 1919-1941
帝国人造肥料 (株)

高度経済成長 1941-1989
帝国化工 (株)

バブルと低成長 1989-2010
テイカ (株)

デジタル化と人口減少 2010-

大阪工場 (1919年～)

1919

過リン酸肥料



硫酸



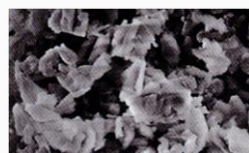
1961

界面活性剤



1981

防錆顔料



1999

導電性
高分子薬剤



<海外工場>

2001年 TAYCA (Thailand) co.,Ltd
2014年 TAYCA (VIETNAM) co.,LTD

<子会社化>

TRS Technologies, Inc

2018

圧電単結晶



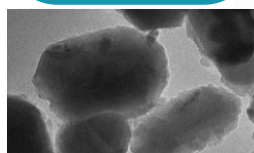
1996

圧電
セラミックス



1951

酸化チタン



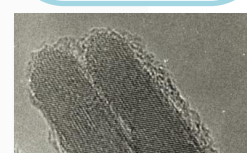
1983

微粒子
酸化チタン



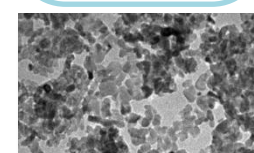
1996

表面処理製品



2003

微粒子
酸化亜鉛



岡山工場 (1942年～)
熊山工場 (2006年～)
熊山工場長船分工場
(1995年～)

セグメント別 関係会社

開示セグメント	機能性材料事業		電子材料・化成品材料事業			その他
サブセグメント	汎用製品	微粒子製品	界面活性剤	圧電材料	導電性高分子	
セグメント詳細	<ul style="list-style-type: none"> 酸化チタン 赤外線遮蔽 光触媒 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> 微粒子酸化チタン 微粒子酸化亜鉛 表面処理材料 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> スルホン酸塩 硫酸エステル塩 芳香族スルホン酸 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> 圧電セラミックス 圧電単結晶 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> 各種ドーパント モノマー 分散体 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリング 荷役、梱包 倉庫 Etc.
国内関係会社	テイカ株式会社					テイカ倉庫株式会社
	テイカ商事株式会社					テイカM&M株式会社 (テイカ倉庫子会社)
海外関係会社	ジャパンセリサイト株式会社 (50%)			TFT株式会社 ※1		
			TAYCA (Thailand) Co., Ltd. (86%)	TRS Technologies, Inc.		
			TAYCA (VIETNAM) CO.,LTD.			

機能性材料事業：主要製品の概要

汎用用途の酸化チタン

酸化チタン

優れた白色顔料として、塗料、インキ、プラスチック、化学繊維、製紙など白いものはもちろん、色のついたもののほとんどに使用されています。

また、白色度、着色力、安全性、化学的安定性など優れた性質をもち、社会のあらゆる分野で役立っています。



赤外線遮蔽酸化チタン

赤外線領域の散乱効果を最大化する粒子径に設計しており、太陽光中の近赤外線を遮蔽し、温度上昇を防ぐ効果がある。ヒートアイランド現象低減に役立っている。



光触媒用酸化チタン

光触媒用酸化チタンは、紫外線や水・酸素などのクリーンなエネルギーによって発現する酸化チタンの酸化力を利用し、有害な有機物を分解・除去します。これら光触媒効果を活用した、汚れ防止効果を付与した外壁や脱臭効果を付与したインテリア等が実用化されています。



機能性用途の微粒子製品

微粒子酸化チタン

微粒子酸化チタンは、一般の白色顔料用酸化チタンに比べてはるかに小さい10~50nmの粒子径を有する超微粒子、可視光線部における光透過性と紫外部での光遮蔽性が大きい等の特徴ある性質を備えており、しみの原因となる紫外線UVBの遮蔽性に優れています。



微粒子酸化亜鉛

微粒子酸化亜鉛は、微粒子酸化チタン同様、優れた紫外線遮蔽能力を持つ機能性粉体です。微粒子酸化チタンと比較して、可視部における透明性が高く、しわ、たるみの原因となる紫外線UVAの遮蔽性に優れています。

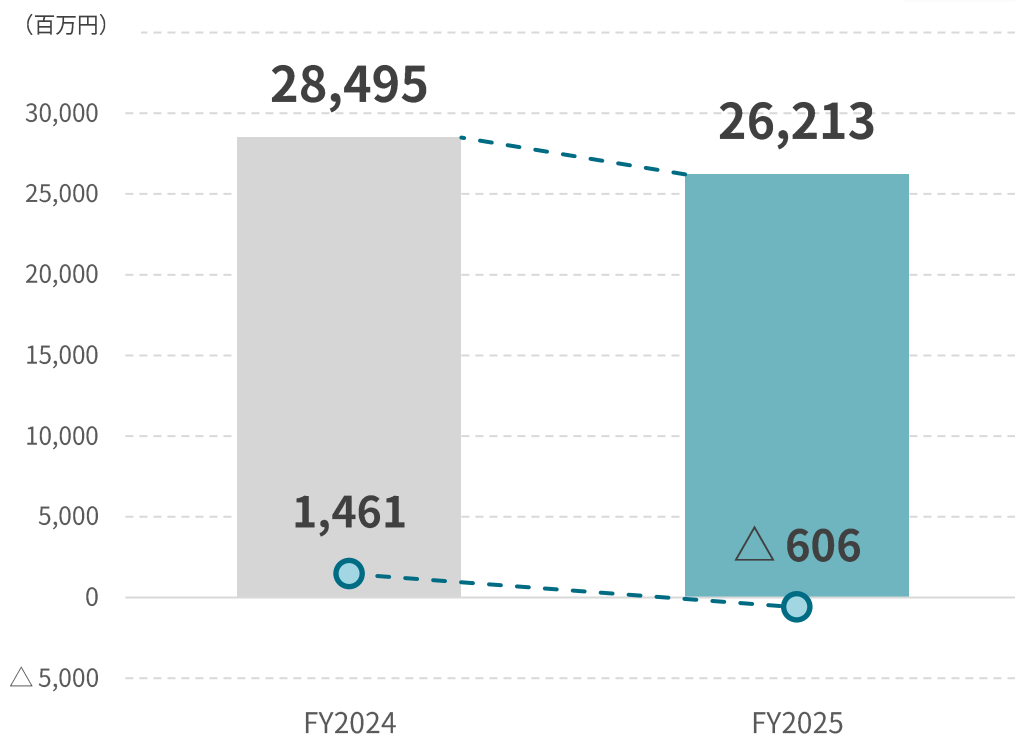
表面処理製品

微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛等の無機粉体が持つ優れた特徴を最終製品で発揮できるよう、各種有機化合物で表面処理した粉体製品。表面処理を行うことにより、粉体表面が親水性や親油性に改質され、耐光性や分散性などの特長を付与できます。化粧品原料、プリンターのトナー用外添剤をはじめ幅広い分野で使用されています。

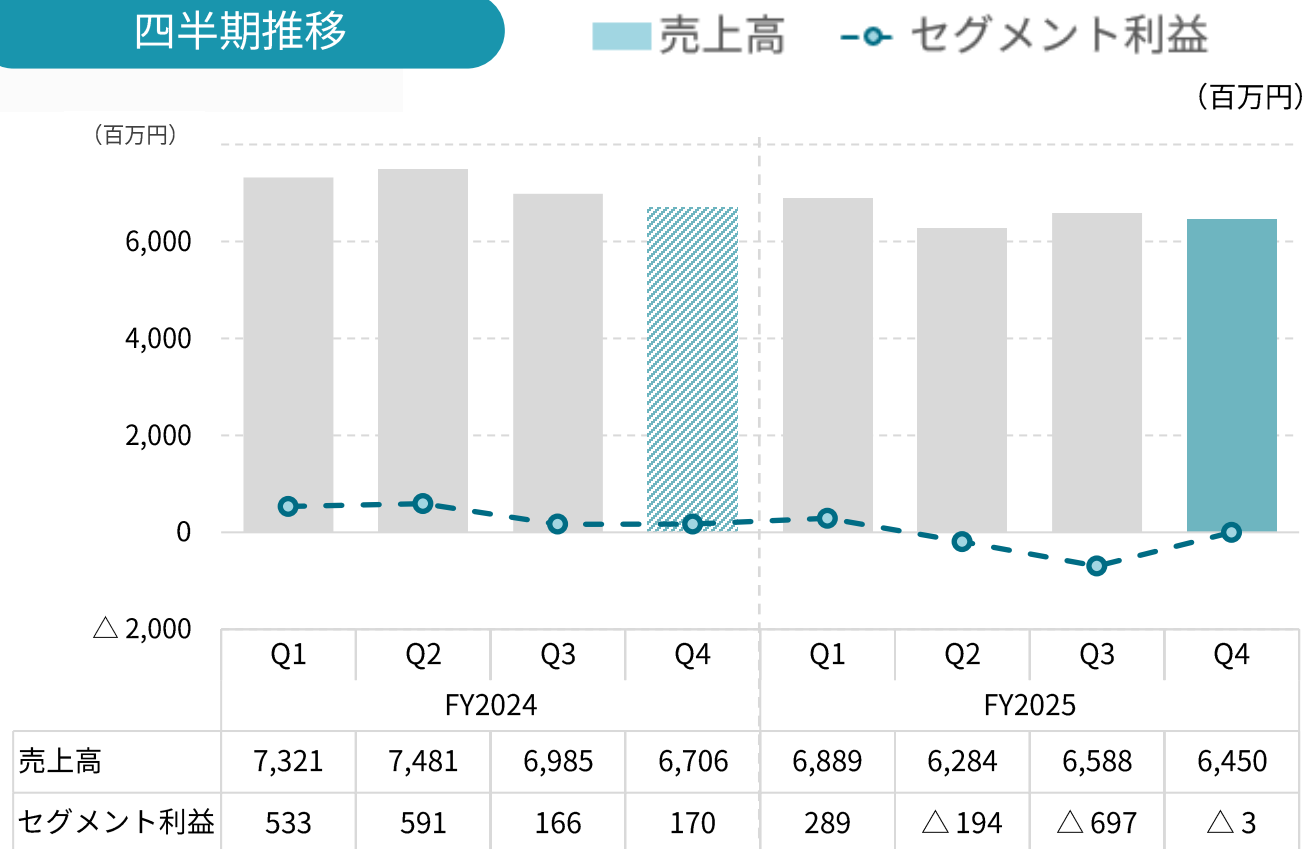
機能性材料事業：セグメント業績

- ・汎用用途の酸化チタン：国内向けでは建築塗料向けが軟調、海外向けでも厳しさが増す
- ・機能性微粒子製品：海外を中心に在庫調整局面が継続した影響により、前年度を下回る
- ・熊山第4工場の減価償却費を2025年11月から計上

四半期累計前年対比



四半期推移



電子材料・化成品事業：主要製品の概要

・化成品

界面活性剤

当社の界面活性剤は、水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用されています。



無公害防錆顔料

当社は、リン酸塩の研究を長年続けた結果、世界に先駆けてリン酸塩Kシリーズ、無公害型防錆顔料の量産技術確立し工業化したしました。地球環境にやさしい技術として、防錆剤、硬化剤、吸着剤など多用途に利用され高い評価を得ています。



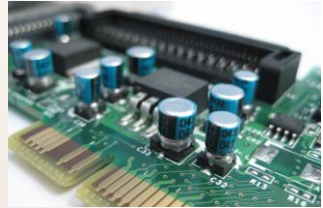
硫酸

硫酸は医薬品、化学肥料といった化学品産業から金属、鉄鋼といった重工業まであらゆる分野での基礎原料となっています。当社では、創立当初より硫酸の製造を開始。この硫酸を基礎原料に酸化チタン、界面活性剤の製造に着手してきました。

・電子材料

導電性高分子薬剤

添加物を加えることで、プラスチックのような電気が流れない絶縁体を電気が流れる「導電体」に変えます。当社はいち早くこの性質に着目し、当社固有技術と融合させ、様々な要求特性に対応した導電性高分子薬剤を開発。電子機器に欠かせないコンデンサに使用されています。



・医療・圧電材料

圧電材料

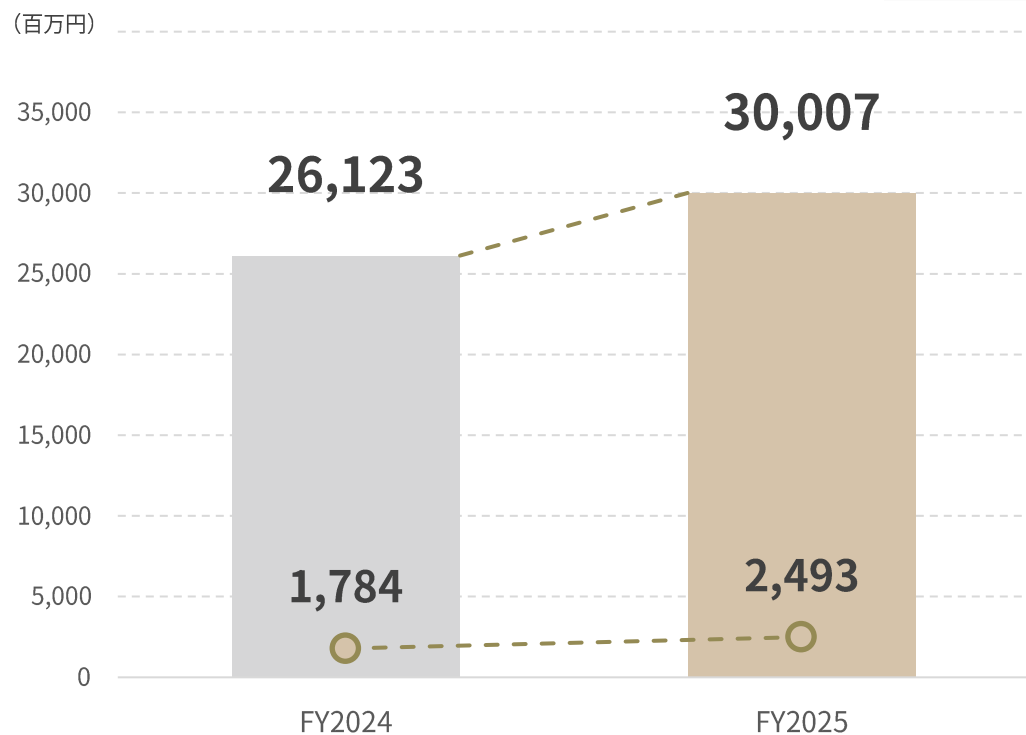
圧電材料は、電圧を加えることで、伸縮を繰り返し振動する現象を利用し超音波を発生させることができます。エコー検査に使われる医療用超音波診断機はこの機能を利用しています。発生した超音波から画像を映し出すことで、エックス線などは使わず、体の中を安全に調べることができますので妊婦検診や心臓・腹部等の診断で多く使われています。



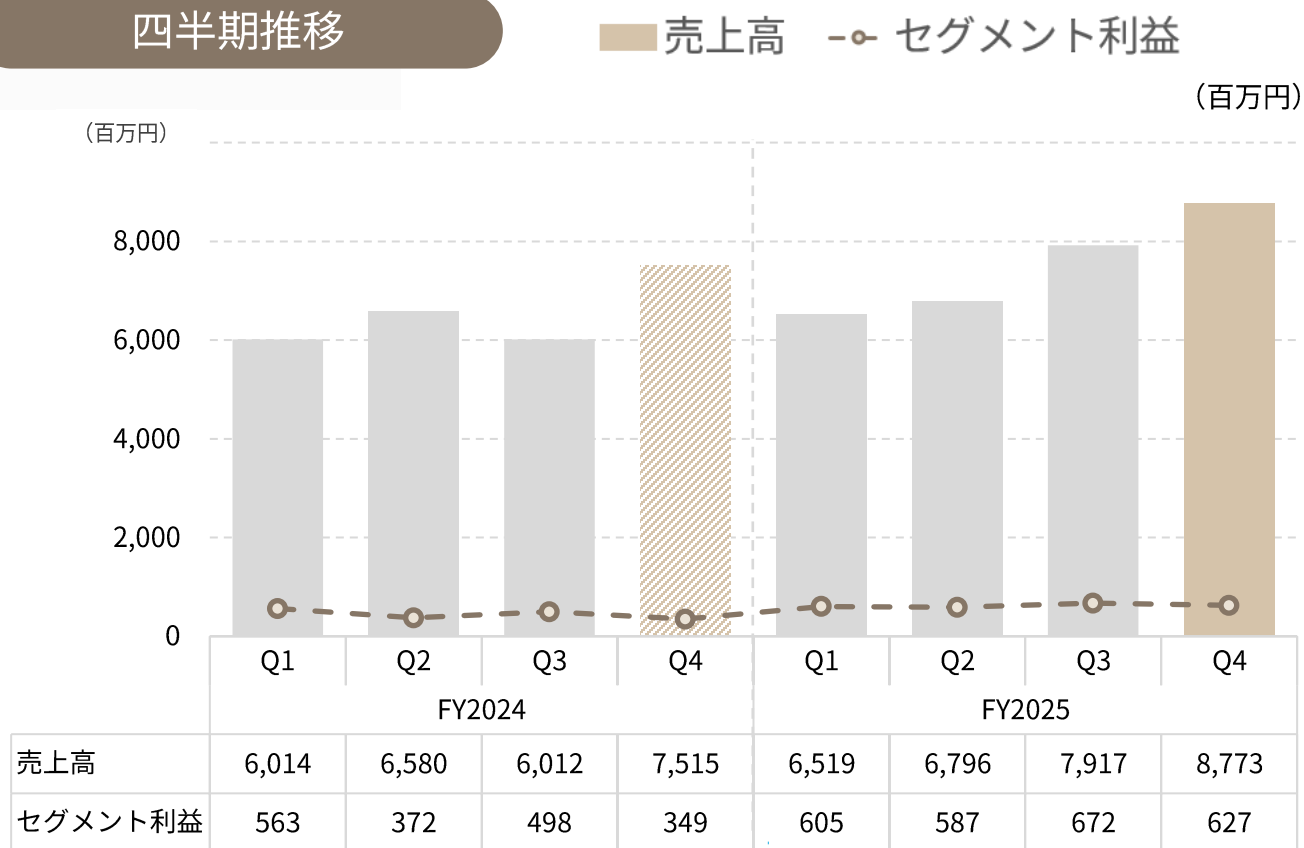
電子材料・化成品事業：セグメント業績

- 界面活性剤 日用品洗剤およびヘアケア用途向けの販売が好調に推移
- 導電性高分子薬剤 車載用途に加え、AIサーバー等の情報インフラ用途が好調に推移
- 圧電材料 海外市場における関税対策に伴う先行的な在庫積み増し需要が堅調に推移

四半期累計前年対比



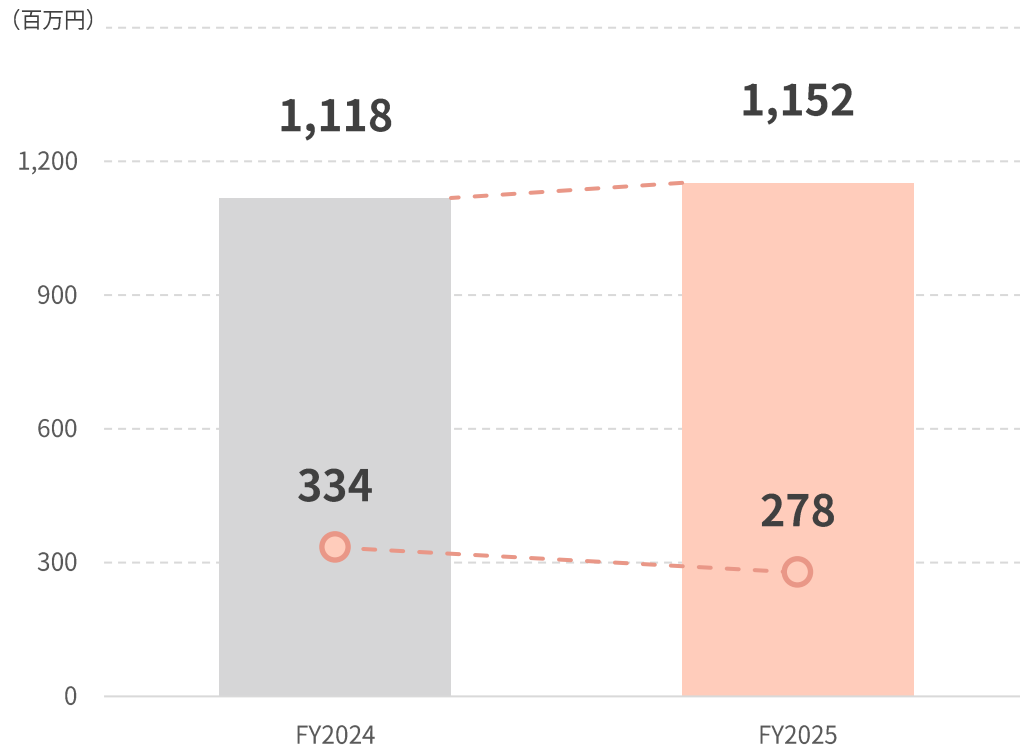
四半期推移



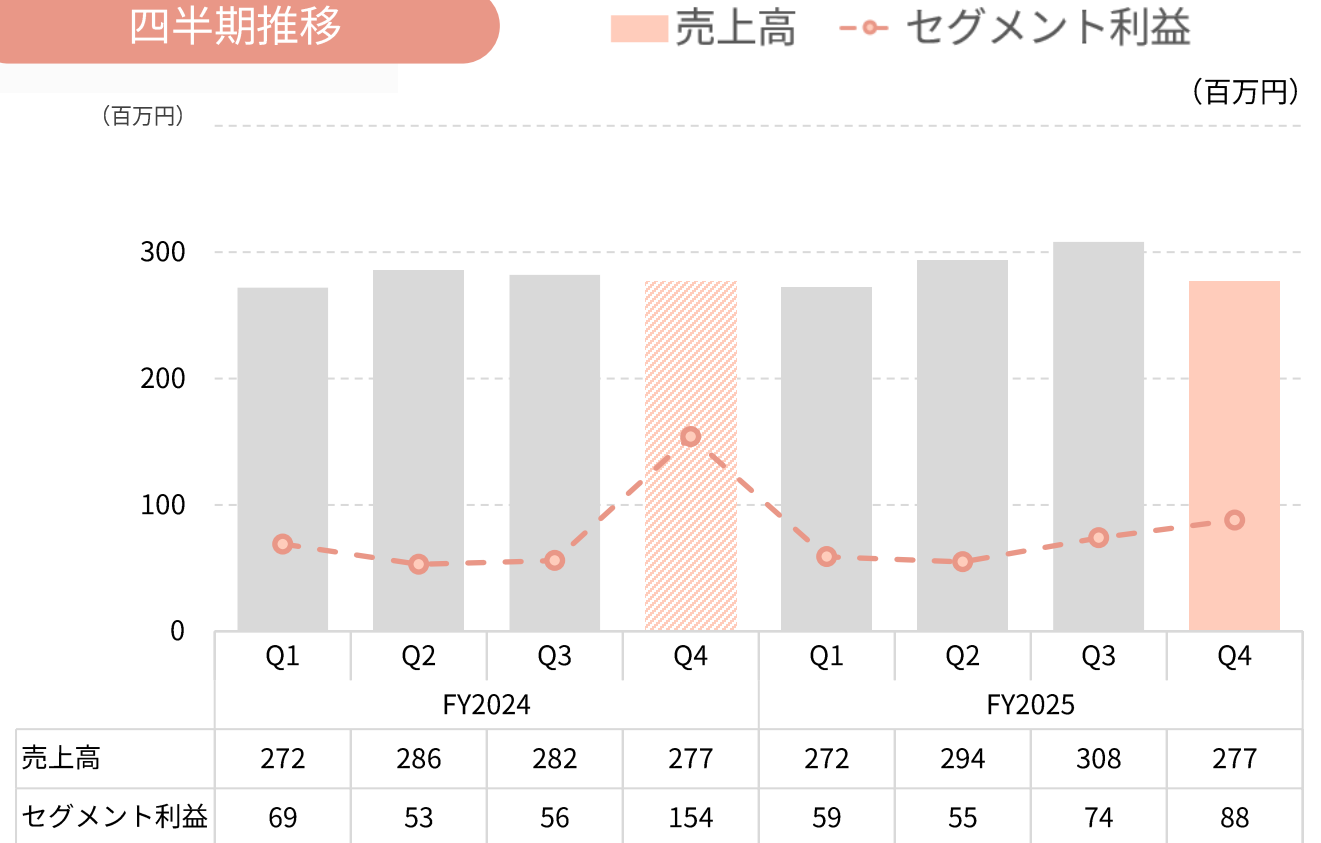
その他事業：セグメント業績

- ・ テイカ倉庫は、底堅い危険物保管需要により、業績は堅調に推移
- ・ テイカM&Mは、例年並みの定期工事受注により、業績は安定

四半期累計前年対比



四半期推移



通期業績予想

- 設備投資による減価償却費増や人材投資、原燃料価格高騰はあるものの利益率は改善
- 今期の設備投資は修繕・更新の設備投資が中心であり、大型投資は見込まない
- 中東情勢の緊張による世界経済全体への影響は、当該見通しには未反映

科目	FY2026(百万円)			FY2027予想(百万円)			増減額 (百万円)	増減率 (%)
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想		
売上高	27,056	30,316	57,373	29,500	30,000	59,500	2,127	3.7
営業利益	1,407	769	2,176	1,200	1,300	2,500	324	14.9
経常利益	1,561	1,111	2,672	1,400	1,500	2,900	228	8.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,047	▲ 1,925	▲ 878	900	900	1,800	2,678	-
設備投資額		4,721			3,500			
減価償却費		3,609			3,600			
研究開発費		1,157			1,000			

セグメント別 通期見通し

- ・汎用酸化チタンは市場環境の厳しい状況が継続、機能性微粒子製品は需要拡大の見込み
- ・界面活性剤は日用品需要が底堅く推移、導電性高分子薬剤は需要拡大の見込み
- ・圧電材料は超音波診断機市場の需要が堅調に推移、その他事業は例年並み

科目	FY2026(百万円)			FY2027予想(百万円)			増減額 (百万円)	増減率 (%)
	上期実績	下期実績	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想		
売上高	27,056	30,316	57,373	29,500	30,000	59,500	2,127	3.7
機能性材料事業	13,173	13,039	26,213	13,500	13,500	27,000	787	3.0
電子材料・化成品事業	11,362	14,396	25,758	13,000	13,400	26,400	642	2.5
医療・圧電関連事業	1,953	2,295	4,249	2,400	2,500	4,900	651	15.3
その他	566	585	1,152	600	600	1,200	48	4.1
営業利益	1,407	769	2,176	1,200	1,300	2,500	324	14.9
機能性材料事業	94	▲ 701	▲ 606	▲ 250	▲ 250	▲ 500	106	-
電子材料・化成品事業	1,049	1,218	2,268	1,050	1,150	2,200	▲ 68	▲ 3.0
医療・圧電関連事業	143	82	225	300	300	600	375	165.8
その他	115	163	278	100	100	200	▲ 78	▲ 28.2
調整	4	6	10	0	0	0	▲ 10	▲ 100.0

経営理念

テイカグループは、
化学の力で感動の素を創り、
世界に夢と笑顔を届けます。

コーポレートスローガン

まじめに感動素材

私たちテイカが100年以上の歴史の中で
築き上げてきたモノづくりの姿勢、それは誠実さです。
お客様と真摯に向き合い、妥協なく試行錯誤を行う中から
よりよいソリューションを実現していくことこそ
テイカのアイデンティティ。

テイカは、社会の感動の“素”になることを目指します

中期経営計画 MOVING-10 STAGE2 概要



事業戦略

- ◆ 営業利益率の回復
- ◆ 競争優位事業への積極投資と増強
- ◆ 事業の選択と集中
- ◆ 新規事業の実現
- ◆ プロセス改善と生産性向上

財務・非財務戦略

- ◆ 資本効率経営とテイカブランドの確立
- ◆ 人的資本拡充
- ◆ CO2の削減

STAGE2における具体的な方針

- ◆ ライフサイエンス分野
拡大：トップメーカーとしての市場席卷
- ◆ 環境エネルギー分野
成長と拡大：導電性高分子薬剤事業の収益化
- ◆ ケミカル分野
効率化：コスト削減と運営体制再構築
- ◆ インダストリアル分野
進化：シナジー追求とコア事業化
- ◆ 新規事業
創出：新事業の育成と事業

STAGE2における具体的な方針

- ◆ **資本効率経営**
株主資本コストを上回るROEの向上
全社KPI運営とキャピタルアロケーション導入
株主還元充実と株主・投資家との対話活性化
- ◆ **人的資本拡充**
情熱人材創出とエンゲージメント向上
- ◆ **CO2の削減**
CO2排出削減計画（ロードマップ）の遂行

	STAGE2	
	FY2026【161期】	
	計画（億円）	FY2023比
売上高	680	+150
営業利益	60	+37
営業利益率	9.0%	+5.0%
ROE	7.0%	+4.0%
EBITDA	105	+50

中期経営計画 MOVING-10 STAGE2 総括と課題

事業戦略

営業利益率の回復
競争優位事業への積極投資と増強
事業の選択と集中
新規事業の実現
プロセス改善と生産性向上

総括

営業利益率 4% (2026年3月期・前年比▲2%)
導電性高分子薬剤の生産体制能力増強 (FY2023比 4倍以上)
機能性材料事業の低迷により構造改革は途上
新事業テーマ創出も事業化に課題
全社改善活動開始も浸透は道半ば

財務・非財務戦略

資本効率経営とテイカブランドの確立
人的資本拡充
CO2の削減

総括

ROEは、低迷・資本政策/IR戦略は検討段階
エンゲージメントサーベイ結果上昇 (61点→65点) も社内意識改革途上
SBT準拠の排出量目標策定・CDP: B/B・Eco Vadis: 65点

成長事業の課題 【電子材料・化成品】

【界面活性剤】
本邦、タイ、ベトナム連携による
アセアン市場での販路拡大と環境
規制対応

【圧電材料】
日米製造体制確立による医療用途
での圧倒的地位確立と他用途への
展開

【導電性高分子】
車載用途における更なる販売増強
と次世代コンデンサ用途向け開発

基盤事業の課題 【機能性材料】

【酸化チタン】
競争激化に耐え得る抜本的なコス
ト低減と事業構造改革

【化粧品原料】
マーケティング強化と新製品開
発・販売推進による安定的な営業
CF創出

新規事業の課題

協業 & 共創による独自のコア技術
深化と試作・評価・量産のスピー
ドアップ

M & Aや事業提携、VC出資の戦略
的な活用と組織強靱化

資本政策の課題

低水準な資本効率改善
【ROEを向上し、PBRを改善】

潤沢な自己資本の有効活用積極化
【成長投資・人材/インフラ投
資・株主還元】

運転資本の適正運営
【在庫圧縮、回収短縮】

サステナビリティの課題

人的資本経営の深化
【情熱人材の創出と育成・働きが
いの創出】

環境規制への準拠、脱炭素対応、
およびSBT認証

中期経営計画 MOVING-10 STAGE3 基本方針

基本方針

- 営業利益の拡大
- 新規事業の実現
- 資本効率化
- 事業投資の積極化
- 経営基盤強靱化

事業戦略

【重点分野】

電子材料事業 : 売上高 2倍以上 (2025年比)
医療・圧電関連事業 : 売上高 60億円以上
新規事業開発 : 売上高 10億円以上

【収益性改善】

機能性材料事業 : 構造改革・営業CF創出

➤ KPI運営による進捗管理

企業価値の向上
ROE 8%以上

三位一体経営

資本政策

【投資】

成長事業投資 : 150億円以上
戦略投資 (含むM&A) の積極活用

【株主還元】

DOE : 3%以上 または
配当性向100%のいずれか高い方を基準
自社株購入 : 100億円以上 (FY2026~FY2029)

➤ KPI運営による進捗管理

経営基盤強靱化

【業務改革】

在庫回転期間の短縮
回収条件適正化

【サステナビリティ】

戦略人材登用と人材投資強化
基幹システム刷新による効率化
GHG排出量削減と外部評価向上

➤ KPI運営による進捗管理

中長期経営計画 MOVING-10 STAGE3 連結業績推移

- 当社を取り巻く急速な市場環境変化を踏まえ、成長と資本効率を両立するため、新中計「MOVING-10 STAGE3 (FY2026-FY2029)」を策定 (MOVING-10 STAGE2は前倒しで終結)
- 新中計では成長事業を重点拡大し、資本政策を刷新。FY2029 ROE 8%以上を計画

	MOVING-10 STAGE2		MOVING-10 STAGE3			
	FY2024	FY2025	FY2026		FY2029	
	実績 (億円)	実績 (億円)	計画 (億円)	FY2025比	計画 (億円)	FY2025比
売上高	557	574	595	21	590	16
営業利益	35	22	25	3	45	23
営業利益率	6%	4%	4%	-	8%	4P
ROE	4%	△1%	3%	4P	8%	9P
EBITDA	67	61	63	2	73	12

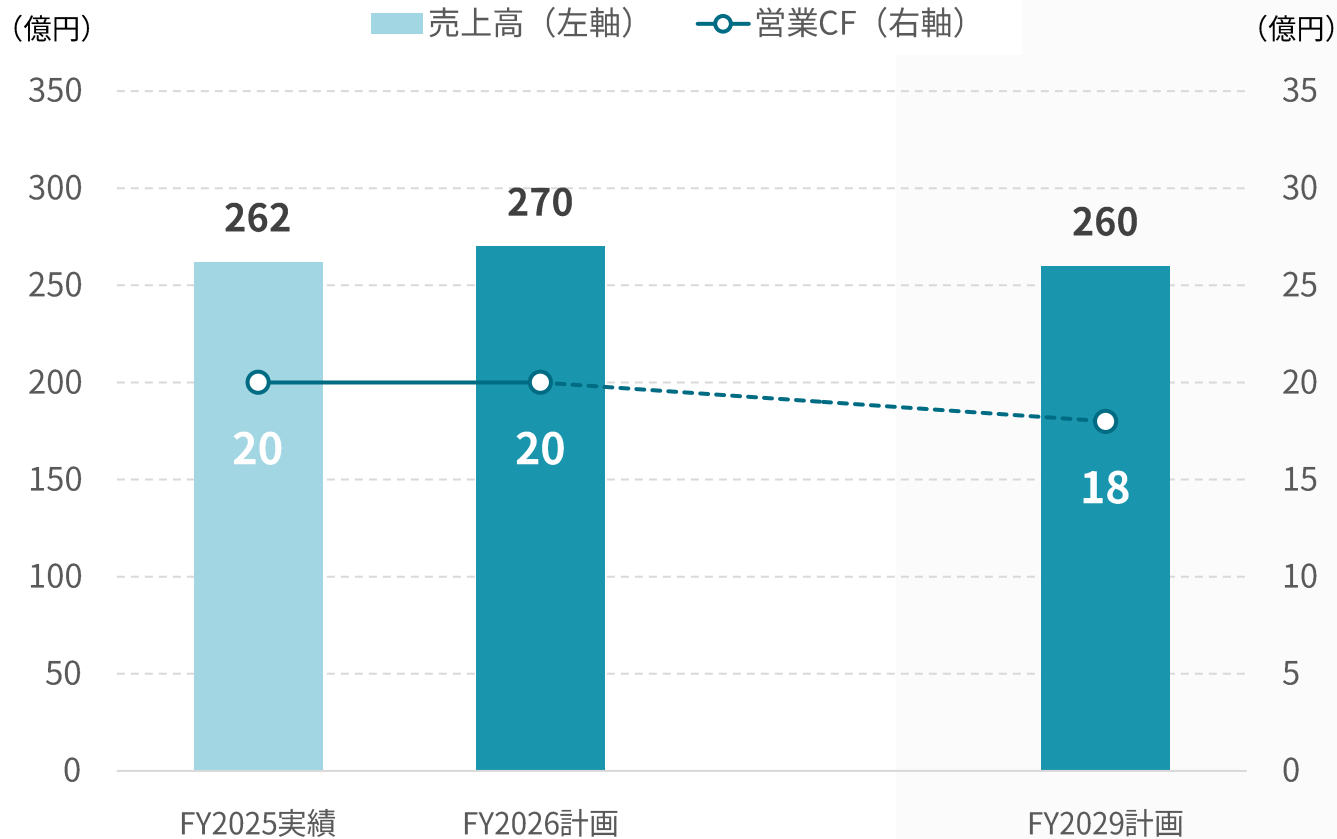
新セグメント別 関係会社

開示セグメント	機能性材料事業		電子材料・化成品材料事業		医療・圧電	その他
サブセグメント	汎用製品	微粒子製品	界面活性剤	導電性高分子	圧電材料	
セグメント詳細	<ul style="list-style-type: none"> 酸化チタン 赤外線遮蔽 光触媒 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> 微粒子酸化チタン 微粒子酸化亜鉛 表面処理材料 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> スルホン酸塩 硫酸エステル塩 芳香族スルホン酸 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> 各種ドーパント モノマー 分散体 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> 圧電セラミックス 圧電単結晶 Etc.	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアリング 荷役、梱包 倉庫 Etc.
国内関係会社	テイカ株式会社					テイカ倉庫株式会社
	テイカ商事株式会社					テイカM&M株式会社 (テイカ倉庫子会社)
海外関係会社	ジャパンセリサイト株式会社 (50%)					
			TAYCA (Thailand) Co., Ltd. (86%)		TRS Technologies, Inc.	
			TAYCA (VIETNAM) CO.,LTD.			

中長期経営計画 MOVING-10 STAGE3 機能性材料事業

構造改革実施による持続的な営業CF創出

- ・ 汎用酸化チタンでは、事業構造改革による安定化を図る
- ・ 化粧品原料では、海外販売拡大と新商品投入、及びコストの抜本的圧縮

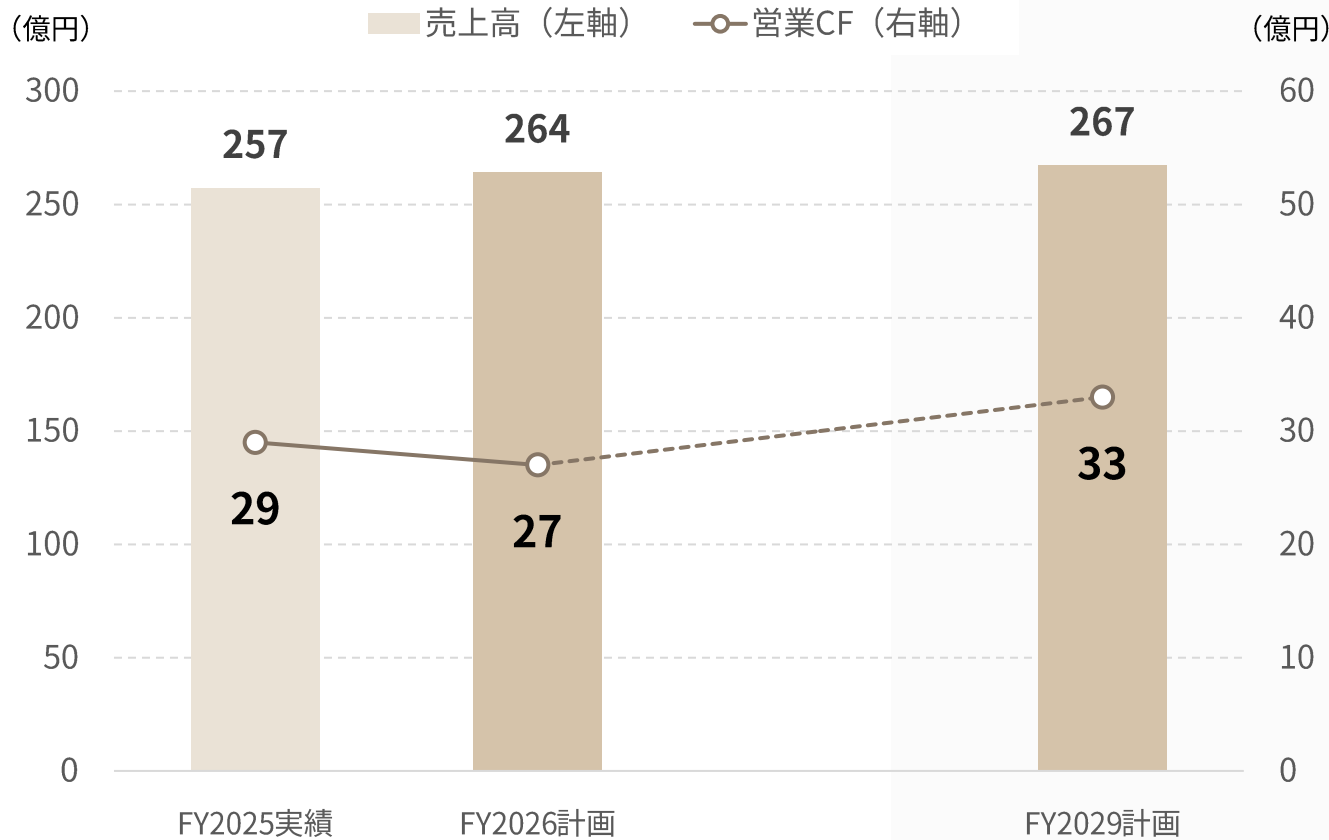


- ① 製造プロセス改善
- ② 在庫運営精緻化
- ③ 製品ラインナップの最適化
- ④ 重要顧客へのリソース集中

持続的な営業CF創出

中長期経営計画 MOVING-10 STAGE3 電子材料・化成品事業

- ・ 導電性高分子薬剤では、独自技術力開発と顧客の課題解決提案を強化
- ・ 更なる高付加価値分野への進出

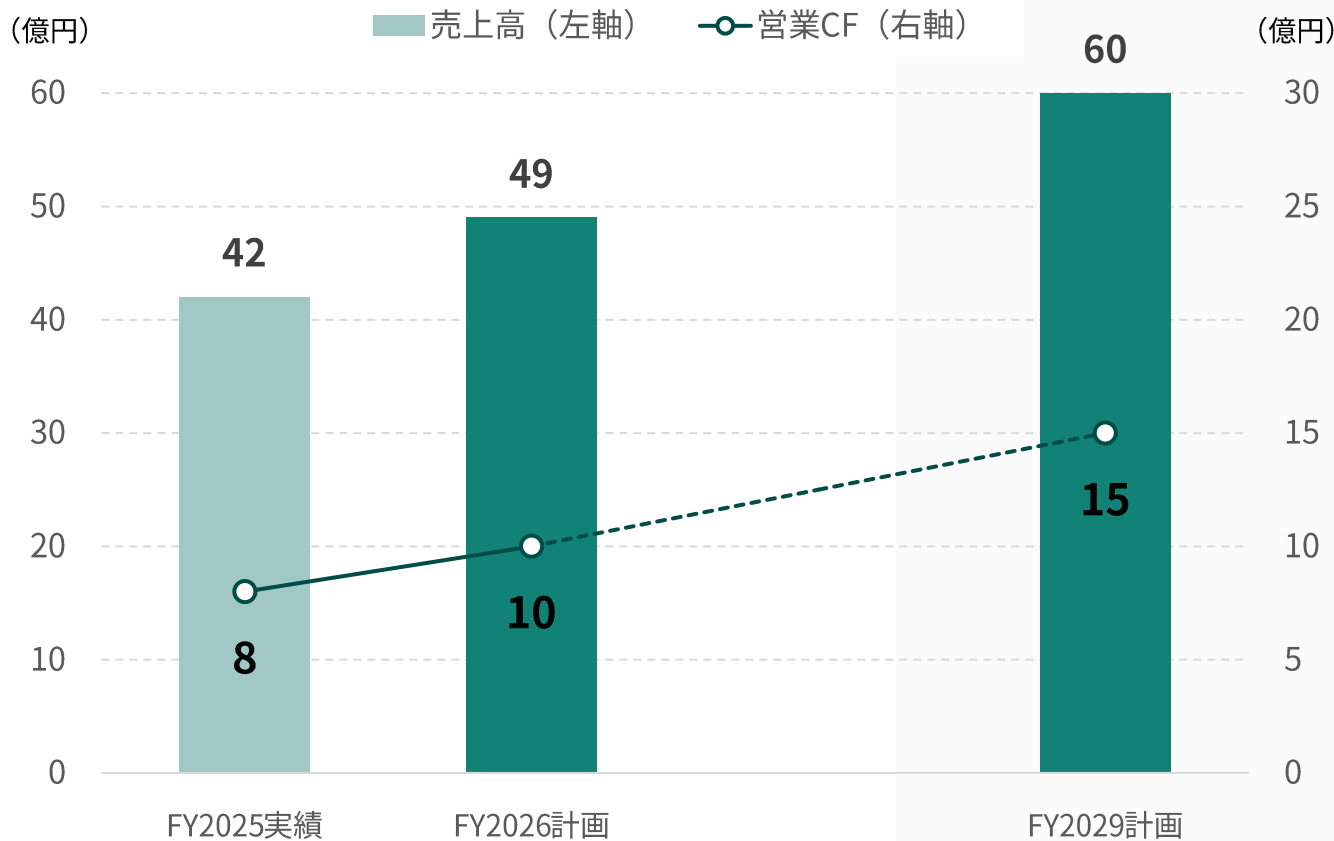


更なる高付加価値分野

開発素材	用途	~FY2025
チタニアゾル	車載用ディスプレイ・映像・メガネ等	採用決定済・量産検討
次世代素材	半導体・AI/インフラ関連他	テーマ創出・顧客提案

中長期経営計画 MOVING-10 STAGE3 医療・圧電関連事業

- ・ 成長投資の拡大と戦略人材投入により、日米2拠点での販売を拡大
- ・ 日米2拠点製造体制を駆使し、需要拡大の期待できる重点顧客への集中的なアプローチを実施
- ・ 単結晶、セラミックス技術の高度化により、新用途の探索、川下展開から市場参入を実施



成長加速に向けた投資



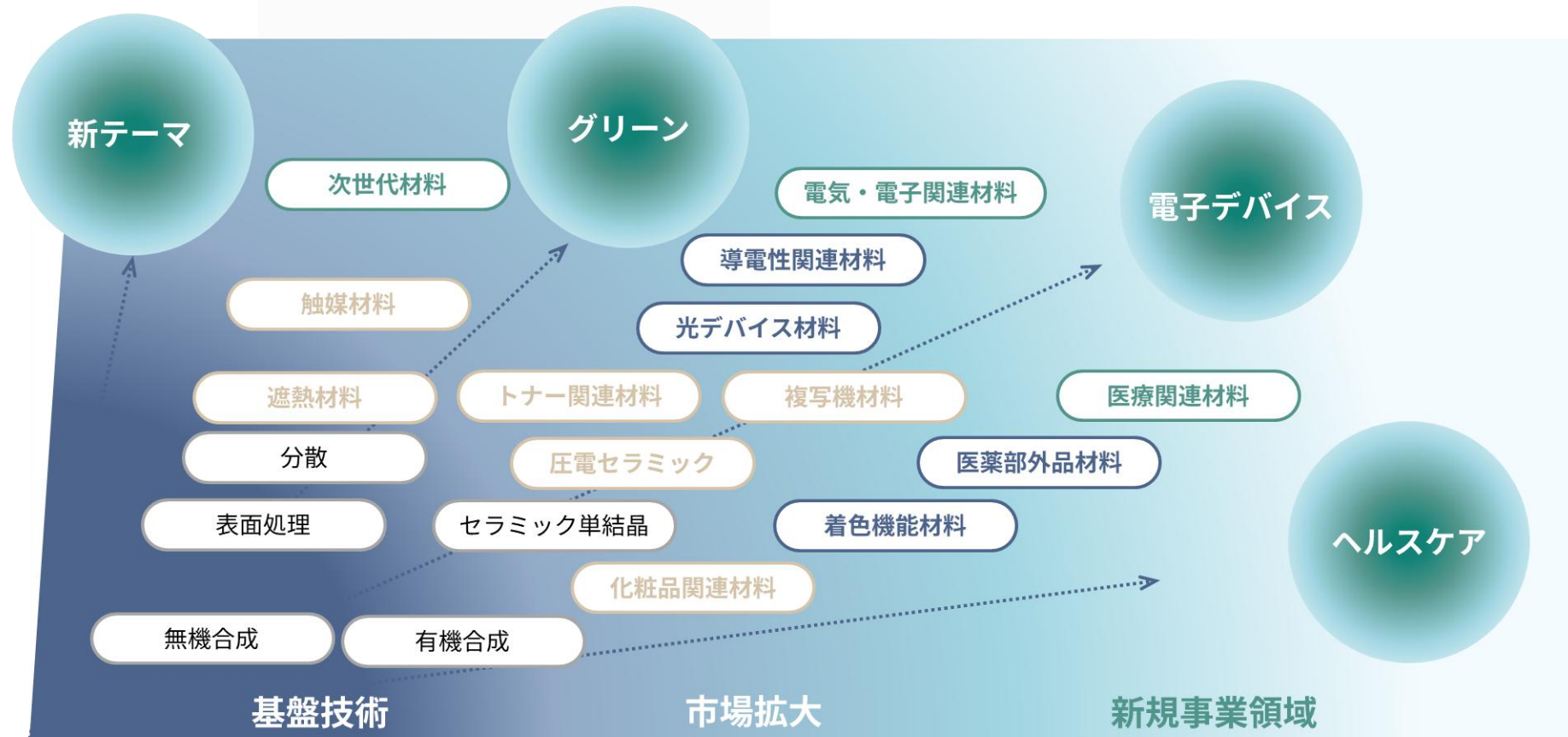
新規事業開発

- 投資 : ターゲット分野の事業化に向けた50億円以上の新規事業開発投資枠設定
- 協業&共創 : 新規事業への進出【M&A・事業提携・JV設立・VC投資積極化】
- 組織強化 : 組織再編による事業開発スピード迅速化と戦略人材投入

新事業領域

ロボティクス
XR (VR・AR・MR)
バイオテクノロジー

FY2029 売上高
10億円以上



資本コスト経営

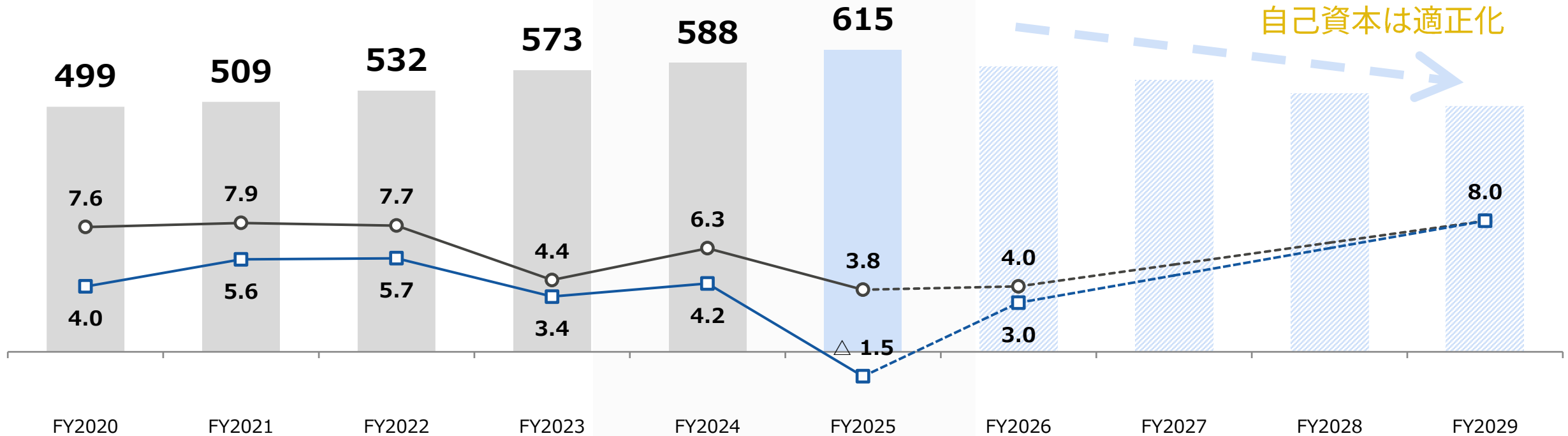
基本方針

- 資本コスト経営の確立
- 事業戦略遂行による稼ぐ力の拡充
- 資本効率化運営の実施
- 成長余力を残す財務健全性の確保
- 余剰資本の活用による株主還元積極化
- PBR向上のためのIR活動強化
【早期のPBR1.0倍以上達成】

- 成長分野や人的資本・システム投資による資本活用活性化
- 在庫回転期間短縮（現状1か月）
- 債権債務の回転期間適正化
- 政策保有株の縮減
- 有利子負債活用と高水準の自己資本比率適正化

■ 自己資本 ○ 営業利益率 □ ROE

(億円)



キャピタル・アロケーション

営業CF捻出と有利子負債活用により、戦略投資・株主還元を強化

- 運転資本の適正化（在庫回転率上昇と回収条件の見直し）による営業CF創出
- 財務健全性を維持しつつ、財務レバレッジを活用して資本のリターンを高め、成長投資や株主還元に充当

Cash-in

有利子負債活用
政策保有株縮減

240億円

営業CF

270億円以上

【在庫圧縮＋回収条件見直し】

Cash-out

成長投資

150億円以上

基盤強化投資

160億円

株主還元

200億円以上

- 医療・電子材料関連 100億円
- 新規事業開発 50億円以上

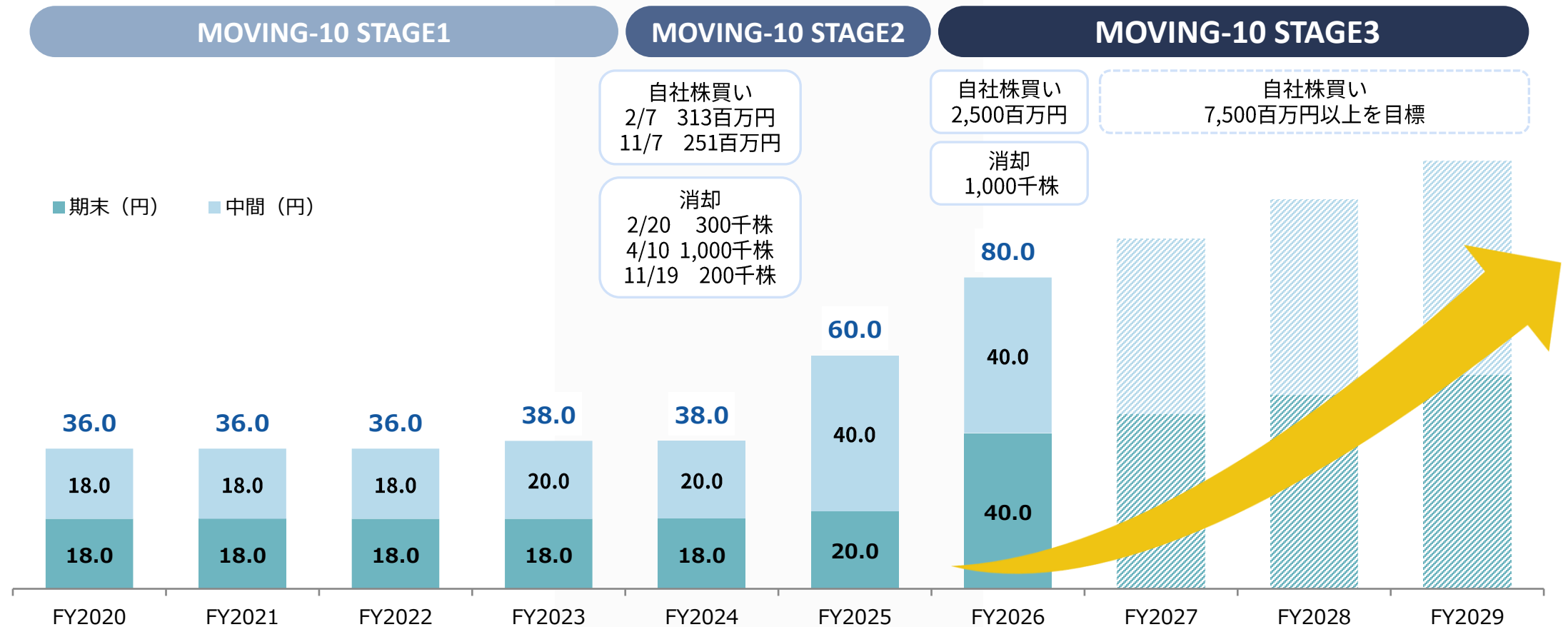
- 既存設備更新 140億円
- 基幹システム刷新 20億円

- 配当方針DOE 3%以上または配当性向100%のいずれ高い方を基準
 - 自己株式取得100億円以上 (FY2026～FY2029合計)

株主還元方針

積極的、かつ安定的な株主還元を実施

- ①配当方針 : DOE 3.0%以上または配当性向100%のいずれか高い方を基準に配当する方針
- ②自己株式取得 : STAGE3期間中は、100億円以上を目標・資本効率の改善状況に応じた機動的な取得



人材重視による企業価値の向上

中長期的な成長と事業基盤を支える次世代人材を育成

社員エンゲージメントスコア



FY2023

62点

FY2025

65点

FY2029目標

71点

キャリア形成・成長促進

- **キャリア開発プログラム運用**
 - ・キャリアパス明確化
 - ・自律的キャリア形成
 - ・計画的な人材配置
- **社員タレントマネジメント活用**
 - ・多能化推進、組織活性化

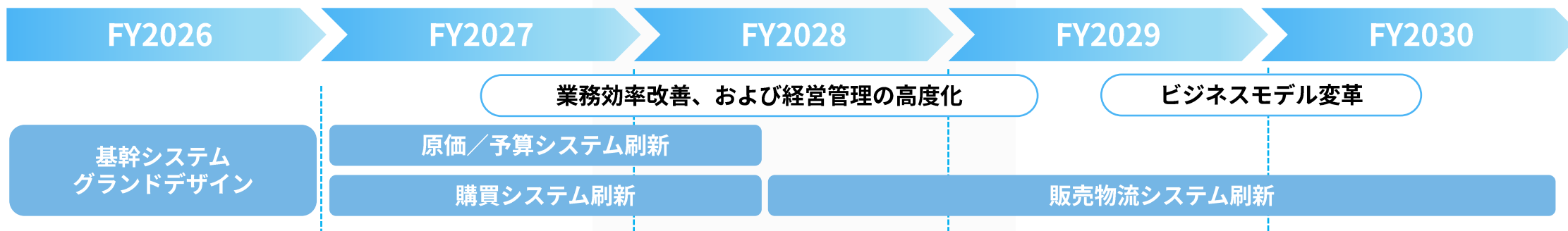
能力強化・働きがい創出

- **体系的教育体制の再構築**
 - ・教育環境の整備、支援体制拡充
 - ・自発的学習による自己成長促進
- **育成強化**
 - ・社内プロジェクト参画、推進

システム・ESG

基幹システムの刷新

- STAGE3期間にシステム投資20億円を充当して、基幹システムの刷新を計画
 - ・原価管理・予算・購買システムの刷新【FY2028】
 - ・販売物流システムの刷新【FY2029】
- システム刷新による経営管理の高度化
 - ・原価・予算・購買・販物を一気通貫で刷新し、調達最適化と在庫適正化で運転資本の圧縮
 - ・内部統制と決算／計画のスピードを上げ、業務を標準化して成長に耐える基盤を構築



ESG

- GHG排出量削減
 - 二酸化炭素 (CO2) をはじめとする温室効果ガス (GHG) 排出量削減への取り組みを継続的に実施
- 外部評価機関 (Eco Vadis・CDP) の評価向上
 - グローバルサプライチェーンを通じて地球環境や社会に配慮した事業活動を推進することでCDPやEco Vadisなどの外部機関評価向上を計画

GHG排出量(千t)	FY2024実績	FY2030目標
Scope1&2 (42%削減)	214	124
Scope3 (25%削減)	394	295

外部評価		FY2025実績	FY2029 目標
CDP	気候変動	B	A-以上
	水セキュリティ	B	B以上
Eco Vadis		65点	70点以上



Thank you